
W2165B書店

W2165B

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

W2165B書店

【Nコード】

N8410D

【作者名】

W2165B

【あらすじ】

ここはインターネットの片隅にひっそりと佇む、たった一つの本だけを扱う書店です。

本を作ろう！

みなさんはなんのために小説を書いていますか？

作者は先日、連載小説「千尋・ザ・ブラックナイト」第一部を完結させました。

予定では原稿用紙300枚程度の物語で、異世界での一年間の冒険を描く予定でしたが、書き始めるとそういうわけにもいかず予定枚数で物語の冒頭しか描くことができませんでした。

ですが、より話も膨らむと言うことで、それはそれでよかったのかもしれません。

予定の五分の一しか消化できませんでした。この続きは第一部が日の目を見ることがあればまた執筆する機会もあるでしょう。

ここ数年で一本の中編小説しか制作することができなかったのに、「小説家になろう」を利用してからというものの、一年にも満たず一日あたりの執筆時間も限った作業で、二作の長編を完成させることが出来ました。

環境やツールというものが創作作業に与える影響の大きさに驚かされます。

「千尋・ザ・ブラックナイト」は、日々思いつくままに書いていたので、推敲がなされておりません。これから改稿し、小説賞に応募する予定です。

また、どこに応募すればいいのかも考えなければいけないところですが、いずれにしても応募してから締め切りを経て、発表まで数ヶ月を要すると思われます。

この間に新作に取りかかってもいいのですが、気分を変えて新しい試みに挑戦したいとも思います。

「千尋・ザ・ブラックナイト」をお読みの方はご存知の通り、わたくしと知人で一冊の書籍を刊行しました。

「千尋・ザ・ブラックナイト」読者の方にも本を買っていただきありがとうございます。

このとき書店さまと縁が出来ましたので、このルートで自分名義の書籍を作ってもみたいと考え某所で、『合同誌をつくって書店で販売しよう』と告知したところ、たくさんの方からお問い合わせをいただきました。

「小説家になろう」管理人ウメさまに、上記の書籍とともに報告したところ、励ましの言葉をいただき、また書籍の告知もしていただけるとの返信をいただきました。

出版した本は、正確にはわたし名義の本ではないこと、発行部数もごくわずかな部数と限られていることから、なろうトップページでの大々的な告知には気後れしてしまいました。合同誌もトントン拍子にはいかず、（ただし、参加希望者は多方面で別企画を立ち上げ活躍されてます）報告できるほどの詳細もまだありませんでした。

参加希望の方とは現在も、定期的に連絡を取り合っています。

そこで今回は、書籍の宣伝と新たな合同誌参加者を募るために、この一連の作業をひとつの作品として連載してみようと思いました。

次回以降、書籍の制作にまつわる話だけでなく、書籍全般やそれ以外の気づいた事柄なども交えて取り上げて行きたいと思います。

思いつくまま、気の向くまま、わたしの作った泥舟に溺死覚悟で乗ってみたいという方がいましたら、どうぞ作者あてメッセージに返信先アドレス（これがないと返事が出来ません）を添えてお問い合わせわсекください。

どんな本を作るの？

書籍なんて本当に作れるの？　なんて思う方もいるでしょう。

結論からいえば、「既に一度作った」ということになります。

本を作るためには、いくつかの過程があります。

大きく分けて、1／原稿執筆、2／書籍コードの取得、3／製版製本、4／流通。それぞれの過程に、細かい作業があります。

1／原稿執筆に関しては、説明するまでもなくみなさんが自分で用意すればいいものですが、2の過程以降は専門的な知識が必要となります。

一年ぐらい勉強して、根気と熱意があれば2以降の過程を自分で行うことも不可能ではありません。

不可能ではないと言いましたが、とても大変ではあります。

10人中9人は、途中で挫折するかお金をどぶに捨てる結果になると思われます。

前述の書籍は、ある経緯で制作され非営利的かつ限定的な本です。

その制作過程にわたし自身も参加していたので、どれだけ大変な作業だったか、後にお話しましょう。

書店さまのご厚意がなければ、完成させることはできませんでした。

このような苦労も勉強だと思える人であれば、とてもやりがいのある仕事といえます。むしろ、わたしや版元さまが味わった苦労をみなさんにもしていただきたいと思うのは、出来上がったときの感動がそれだけ大きくなるからです。

作品制作そのものに専念したい人であれば、小説賞への応募や出版を手配してくれる出版社もありますので、そういった方法で自作を書籍化するのも悪い方法ではありません。

次回は、自費出版にまつわる事件について触れてみたいと思います。

本を作るにはいくらぐらいのお金がかかるのでしょうか

先ごろ、自費出版大手の新風舎が経営破たんしたのは、みなさんもよく知るとおりです。

私事を例に出すと、以前に本サイトでラブコメを連載していた（現在は公開停止しています）ときに、終盤は日別アクセスランキングで1位をいただいていたことがありました。

アクセスランキング上位になると、出版社からスカウトされるかも？ とか、自費出版の誘いがあるのだろうかと考えていましたが、とくに何事も起きません。

それ以来、ランキングには特にこだわることはなく、むしろ本の宣伝のためにアクセスを増やしたいという意味のほうが大きくなりました。

困ったことに、わたしも自著を他人に紹介すると、「ああ、例の自費出版のトラブルに巻き込まれたの？」なんて、同情されたりすることもあります。

前のページで自費出版も悪くないと言いましたが、これはあくまで本を出版する方法論のことで、今回のトラブルで出版費用を負担したにも関わらず、書籍が流通することもなく、倉庫での断裁処分を免れるために自分で本を買い取らねばならなくなった著者のみなさんには、心よりご同情申し上げます。

また、それ以前からあった「約束通りに本が書店に並ばない」などのトラブルも聞き及んでいたので、出版社によっては、著者に対し

て誠意のない対応をする会社があることも事実でしょう。

「そんなトラブルを知っているながら、なぜ自費出版に好意的な意見を持っているんだ」と思われるかもしれません。

次回に続く。

自費出版あれこれ

書店や最近コンビニなどで著名な経済人や経営者の著作物を見かけることが多くなりました。

先日、大学の恩師から研究叢書を一部いただきました。恐縮して購入しますと言うと、大学の研究予算で作ったものだからいい、と言われました。

大学教授などは定期的に研究成果を発表する義務があり、大学が経費を負担して書籍を発行することもあります。

その費用は学生の学費から出ているわけですが、それによってより高度な研究の結果を講義で修得することができるようになります。

叢書は学生や研究者仲間・学会関係などに配布されるので、500部制作したとのこと。

印刷会社兼出版社に委託した発刊費用は100万円を超えるそうです。

ハードカバーで箱入りの本なので、それぐらいかかるのは仕方ないかもしれません。

単価にしたら2000円、書店に置いて通りすがりの人が買う種類の本ではないでしょう。

ですが、こういった書籍が学問を進化させるわけですから、社会には貢献する部分が多くあるとも言えるでしょう。

本の価値は商業的価値だけではないと言えます。

叢書に限らず、専門書や大学の教科書など小部数の書籍は、数千円するのも同じ理由です。

ただ、自費出版を勧めてくる会社はみんな「本の価値は商業的価値だけではない」と言います。

無名作者の本が、到底黒字になることはありませんから、こういう覚悟で作る分にはどんな結果になっても実害は少ないと言えます。

スポンサー付き出版

ですから、著作者の側で本当に自分の作品にそれだけの価値があるかどうか、自信の持てる作品を作ることと、客観的に自作を評価できる状況を作ることが大事です。

また大企業の経営者やコンサルタントの場合、出版した書籍を自社経費で買い取ることも可能です。その本を、取引先や社員に配ることと十分に広告費としてペイできます。

自社で購入する以外でも、取引先の営業担当者は話の種や付き合いで買うでしょう。

そういった前提で出版社が働きかけを企業の広報担当者に行うこともあるので、本の売り上げに関わらず、出来上がったときには本の採算が取れているということも少なくないのです。

また、自社で購入するときも紀伊国屋書店などの有名書店で購入すれば書籍セールスランキングの上位を占めることも可能です。

いまは企業収益がいいですから、そういった経費は広報担当者にしてみればさして負担にならず、経営者からも好感を持たれて、非常においしい仕事なのではないでしょうか。

こういった例も含めると、商業出版と自費出版には明確な垣根がなくなっていくます。

収益が保証された書籍こそ、出版社にとってはもっとも良いビジネスであるわけですから、法人や経営者丸抱えの本というのは、昔か

らけっこうあるようです。

逆に、リスクを顧みず作品に出版社がほれ込んで出版されるような本こそは、作家冥利に尽きるといえます。

なにが言いたいかというと、出版不況と呼ばれる状況の中、価値観やビジネスモデルは多様化し、出版とは、書籍とはこういうものというルールは無くなりつつあるということです。

本のコスト

作品評価・感想欄から書籍のコストを教えてくださいという感想がありましたので、話を本づくりにもどします。

言うまでもなく本を作るには、紙とインクが必要になります。そして印刷費用。

そのコストは仕様で大きく変わります。

一番豪華なのは写真集。一番廉価なのは文庫本というイメージがあるだろうと思います。

洋書などはペーパーバックという表紙カバーのない簡素な書籍がありますね。その割には、一冊1400円とかけっこう高価なのですが。

欧米人と日本の書籍に対する消費者意識の違いなどは、論文が書けそうなくらい興味深いテーマですが、また別の機会にしたいと思います。

写真集のようにカラーページが多くなれば、当然費用も高くなりますね。

同人誌を作ったことがある人ならば、オフセット印刷の料金はご存知だと思います。ただ書籍の場合、版は小さく、ページ数が同人誌の数倍になりますから、また価格体系が変わってきます。

カラーページといっても、写真そのもののページから、4色、2色カラーと費用は異なります。

今回の書籍の場合、わたし自身は費用を気にする必要はありませんでした。

教育産業に関係するもう一人の著者が、中高生やその保護者のこちらの救いになるようなメッセージを発したいという篤志で制作され、お読みになった方からは好評をいただいております。

部数は少ないですが、これを意気に感じた版元さまが書店での購入を可能にするよう手配をしてくれたものです。

本の値段

今回、おなじ体裁の本を自費出版としてお願いするには、いくらかかるだろうと相談してみたところ、仮に500部を制作した場合、サービスでアマゾンでの販売手続きをして35〜40万円という概算をいただきました。文章主体のモノクロページなので、比較的安いんですね。

もっと多くの書店で取り扱ってもらう方法もありますが、これは売れる売れないにかかわらず、かなりの費用がかかります。

大手出版社が百万円以上の見積もりを出す根拠のひとつです。（それにもかかわらず、書店に本が並んでないなど、とんでもない話ですが）

本そのものは作ればそれで終わりですが、流通や取次ぎは、人の手がかかるので費用がかかるのは仕方ないと思えます。

もし、ご自身の単著として本を作ってみたいという方がいれば、この費用を元にご相談にも乗っていただけるとのことです。お問い合わせはお気軽にどうぞ。

これを5人の参加者で分担すると、ひとり8万円ということになります。

一人あたりの執筆ページは40ページ、原稿用紙で60枚ということになります。

短中篇集という体裁で、内容については統一のテーマを設けたほうがいいかと思いますが、それも難しければ恋愛やファンタジーがラ
ンダムに並ぶことになるかもしれません。

もっと安く作る方法はないかなと考えていたところ、こんな方法もあるよと教えていただきました。

次回に続く。

祝『らしく。』刊行

本日は池袋に買い物に行きました。

暑かったので、休憩がてら映画『ハプニング』を鑑賞。

内容については、まあここでは触れないことにしましょう。

その後、ジュンク堂書店で本を3冊購入。

ベロージェで15分ほど購入した書籍を確認しながら、お茶して帰りました。

本日の購入書籍。

『小説家になろう』でおなじみ、五十崎 由記さんの『らしく。』

刊行おめでとうございます。

ご祝儀の意味も込めて一冊買い求めました。

驚きました。

なにがって、実はとくにこの本を買いに寄ったわけではないのですが、

書棚に見つけて「そういえば……」と手に取ったわけですが、なかなか手につかむことができません。

「？」と思いよく見ると、ページ数533ページ。

「ぶ厚！！」

あんたは京極夏彦か？

『らしく。』は『小説家になろう』で連載開始時にチェックしていて、感想を投稿したこともありました。

わたしの感想（序盤のみ）では、地方の若者の生活感／寂寥感がよく表現できていて、いわゆる「スイーツ文体」とは一線を画していると思いました。

あらすじによるとその後、教員との恋愛が淫行問題に発展すること、正直この展開は新味があるか、わたし好みの物語になっているか、実際に読んで確認したいと思います。

長期連載になったので少し目を離していましたが、やはりこれだけのページ数になるんですね。

考えてみると『なろう』の人気作品って、超長編になる傾向があるような気がします。

『らしく。』でこれなら、

茶山ぴよさんの『君は僕の太陽、月のように君次第な僕』を書籍にしたら、どんな体裁になるんでしょうか？

出版されたら、ぜひ購入したいと思います。

『らしく。』の中身ですが、ソフトカバー携帯小説の体裁になった

のですね。

アルファポリスの書籍はなんとなくハードカバー文芸書のイメージでいたので意外でした。

これから、携帯小説の市場にも進出しようという意図の上で本作品が選ばれたとしたら、妥当な選択だとも思えますが、これからこのジャンルに進出するメリットは少なくなったのではないかなという気がします。

出版点数が増えたことで、携帯小説という宣伝文句でもベストセラーが生まれづらくなってきてもいるでしょう。

カジュアルに物語を手に取りたいという層にはややボリュームが厚すぎる気もしますが、この内容で1260円はお買い得だと思います。

（ちなみに今週の某ベストセラー書籍は110ページで1050円でした）

これを機会にどっぷり五十崎ワールドにつかりたいという方でしたら、十分にその時間を提供してくれます。

特筆すべきは作品紹介で、「ネット小説として大変な人気を博した作家……」の件がありますが、これは「なろう」のことですね。アルファポリスさまは、デビューの有無に限らず「なろう」の人気作者をすでに有望な「作家」として認めていらっしゃるようです。

この作品のPRポイントとして、他所でも同じ内容を見ましたので、これからアルファポリスさまと「小説家になろう」の提携などに発展すればなかなか面白いことになるのではないのでしょうか？

そういう意味でも『らしく。』が好調な売り上げとなりますよう期待しております。

ちなみにわたくしが執筆に参加した書籍も絶賛発売中でございます。
(2010年末にはぼ品切れとなりました。重版の予定はありません。
2011/8/21記す)

感想を送ってくださったみなさん、ありがとうございます。

小説文庫本のビニール包装

「小説家になろう」およびアルファポリス市民のみなさん

当エッセイは、書評や出版物、創作全般についてわたしの日々雑感を掲載しております。

とある場所でこんな議論がありました。

ある大手書店に入ったら、ライトノベルの棚に以前はなかったビニール包装がされており、中身の確認ができなかったとのこと。

これに対して書店員の立場から、作家の立場から、客の立場からいくつかの意見が出されました。

別の書店に問い合わせたところ、

「コミック同様、本の状態を重視するお客様が多いため、包装処理をしている」との回答だったそうです。

この本のビニール包装をシュリンクと言います。

ここでは書店員さんが多かったので、シュリンクにおおむね好意的な意見が多く見られました。

小説の中では、ライトノベルは漫画的な表紙や挿絵が多様されていることで、客層が近いということはあるでしょう。

コミックスを買う人も、ページや表紙カバーに折り目やしわがつい

たりするのを嫌う人が多いようです。

また、シュリンクがされていない店でも、ライトノベル棚周辺でのマナーが悪いとのこと。コミックスが自由に立ち読みできていた頃並みに、売り場を塞ぎ本を傷める客が多いそうです。

さらには、コミックのように読みやすいラノベは、立ち読みで読破して買わずに帰ると自慢する人も多いとのこと。

そんな猛者がいるとは……

作家志望の人は、冒頭だけでも読んでもらわないと購入を決断してもらえないのでシュリンクに反対という人もいましたが、上記の猛者の中にはシリーズ物全巻を読破してしまう人もいるとのこと。

ここまでお読みいただきありがとうございます。

この続きは次回掲載分にてお送りいたします。

どうぞお気軽にご購読ください。

アメリカの書店事情

「小説家になろう」およびアルファポリス市民のみなさん

当エッセイは、書評や出版物、創作全般についてわたしの日々雑感を掲載しております。

コミックは情報量が少ないので、立ち読みされると売りに響くというのは理解できる話です。

ライトノベルもコミックスと客層がかぶり、立ち読みによる売上げへの悪影響は著しいとのこと。

こうなるとシュリンク止むなし。との論調が支配的になっていきます。

これとは対照的なわたしの体験談をひとつお話いたします。

2年前でしたか、アメリカはカリフォルニア州ロサンジェルスへ所用があつて赴いたことがありました。

この旅行の中でもいくつか気づいたことがあるので、そのうち詳しく書くかもしれませんが、とりあえず現地の書店の話をします。

ロスの夏も暑いです。日差しは日本よりギラギラと強いのに、ななに日本にいるときのように汗が出ません。湿度が日本より低いせいで熱が体内にこもるんですね。

観光名所とはユニバーサルスタジオのあるユニバーサルシティなどを見て回ったのですが、買い物スポットへ行くとたくさんの日本人がいます。

このへんで面白い話がいろいろあるのですが、その買い物途中に大型書店へ入りました。

ここまでお読みいただきありがとうございます。

この続きは次回掲載分にてお送りいたします。

どうぞお気軽にご購読ください。

エッセイブログ大賞

「小説家になろう」およびアルファポリス市民のみなさん

当エッセイは、書評や出版物、創作全般についてわたしの日々雑感を掲載しております。

本エッセイの更新日を見ると、ずいぶん久しぶりに更新したなどお思いになられるかも知れません。

このエッセイはアルファポリスの「エッセイ・ブログ大賞」にエントリーしています。

以下概要。

2008年12月1日～末日開催。1月中旬発表。

開催期間中は読者投票、アクセス数などにより、ポイント集計いたします。

「大賞」（賞金10万円／アルファポリス編集部選考）、「読者賞」（賞金10万円／ポイント最上位作）などを選出。

開催ページ

<http://www.alphapolis.co.jp/citicontestprizekaisai.php>

ページ下部のバナーをクリックして投票してください。投票者には抽選で10名に1万円があたります。

と、まあそんなわけで久しぶりに連載を再開した次第です。

ですので、じゃんじゃん投票してください。と、言いたいところなのですが、大賞がスタートし、わたし自身も一人の投票者として一万円当たらないかしら？ とエントリー作品を眺めていたのです。

自分自身の作品には投票できません。

「ああ、この人、青春小説大賞にも出てたなー」とか思いながら見ていましたら……

ここまでお読みいただきありがとうございます。

この続きは次回掲載分にてお送りいたします。

どうぞお気軽にご購読ください。

あるブログのこと。

「小説家になろう」およびアルファポリス市民のみなさん

当エッセイは、書評や出版物、創作全般についてわたしの日々雑感を掲載しております。

さてこのエッセイはアルファポリスの「エッセイ・ブログ大賞」にエントリーしています。

じゃんじゃん投票してください。と、言いたいところなのですが、大賞がスタートし、わたし自身も一人の投票者として一万円当たらないかしら？ とエントリー作品を眺めていたのです。

自分自身の作品には投票できません。

「すごいなー、まだ一日目なのにぶっちぎりだなー」

と、上位陣を眺めていたところ、ひとつのブログに目が止まりました。

「20歳の女の子が恋人に助けられながらガン闘病をした記録……」

若いのに気の毒だな、と思った次の文章に息をのみました。

『ブログ管理人はもうこの世にいません。毎日書きつづった闘病記録をブログとして残してあります』

ページを開くと……、ここからはみなさんもご自身の目で確かめて

ください。

わたしは、久しぶりに涙が出ました。

タイトルは「みちこの生きた道」です。

<http://micomico-87.jugem.jp/>

まだ数日しか読んでいませんが、もはやわたくしごときの雑感ブログが順位を競っていいランキングではない、と思ったほです。

さっそく自分の一票を投じました。

わたしのなかでは、早くもこのブログが大賞に決定いたしました。

「小説家になろう」の読者には、アルファポリスってなに？ とい
う方もいるでしょう。

大賞云々は関係なくぜひお読みいただきたいと思います。

もし、大賞を逃してもドリームブッククラブというシステムもある
ので是非チャレンジしていただきたいし、その際には個人の出資上
限五口を投じようと思っています。

ここまでお読みいただきありがとうございます。

この続きは次回掲載分にてお送りいたします。

どうぞお気軽にご購読ください。

アメリカの書店事情

「小説家になろう」およびアルファポリス市民のみなさん

当エッセイは、書評や出版物、創作全般についてわたしの日々雑感を掲載しております。

「みちこの生きた道」を今日も数ページ読みました。

<http://micomico-87.jugem.jp/>

さてアメリカの書店事情について書いている途中だったのを忘れていました。

ロサンゼルスのは夏は日差しが強く、湿度が低くからとした気候なので体に熱がこもります。来夏に行く方、熱中症にお気をつけください。

ちょっとしたカルチャーギャップですよ。

ショッピングモールと言っても、日本のイオンがお手本にしたショッピングセンター型ではなく、商業施設がひとつの街になっているようなスポットがあります。

その軒に並ぶ大型書店のビルに入りました。日本で言うなら、5階建てのジュンク堂書店池袋店のような大きさの書店です。

アメリカの書店では本にシュリンクがかかっていないことが多いですね。今はどうか知りませんが。

日本でも池袋リブロが取り入れているような本を読むためのベンチや椅子がフロアの各隅にしつらえてあります。

まあ、それは意外でもなんでもないんですけど、書棚を眺めながら歩いていると、

「なんぞ、それ!？」

なんとですね、フロアのカーペットに寝っころがって売り物の本を読んでる白人男性がいるわけですよ。

「マナーが悪いってレベルじゃねーぞ!」

しかも誰も注意しない、ときたまんだ。

アメリカはほんとに立ち読みに寛容です。

ここまでお読みいただきありがとうございます。

この続きは次回掲載分にてお送りいたします。

どうぞお気軽にご購読ください。

書店でコーヒーを飲む

「小説家になろう」およびアルファポリス市民のみなさん

当エッセイは、書評や出版物、創作全般についてわたしの日々雑感を掲載しております。

アメリカというか、ロサンゼルス的大型書店は立ち読みに寛容でした。

それどころか、フロアのカーペットに寝っころがって売り物の本を読んでる白人男性がいるわけですよ。

「マナーが悪いつてレベルじゃねーぞ！」

しかも誰も注意しない。あきれてものが言えない。

話は飛びますが、アメリカって本当にスターバックスコーヒーが多いんですよ。

都市部だと、どこにでもあるってかんじですね。

日本で言えば、ベローチェとドトールとスタバを合わせたぐらい、どこにでもあります。

でね、その書店の最上階にもスターバックスがあるわけです。

池袋のジュンク堂書店や乙女ロード近くのリブレ（だったかな？）にも店内に喫茶があります。

書店内でコーヒー飲むってなんか文化的な感じがしていいですね。
で、まあロサンゼルスのお店でもスターバックスに入ったわけですよ。
さらに啞然としたのは、スタバの客が店の本を読みながら、コーヒー飲んでるんですよ。

最初は、買った本を読んでものかと思ったのですが、見ていてそれが未清算の本だと気づきました。

「It's OK?」と尋ねると、店員は「OK」と答えました。

ここまでお読みいただきありがとうございます。

この続きは次回掲載分にてお送りいたします。

どうぞお気軽にご購読ください。

コーヒーもアメリカンサイズ

「小説家になろう」およびアルファポリス市民のみなさん

当エッセイは、書評や出版物、創作全般についてわたしの日々雑感を掲載しております。

アメリカというか、ロサンゼルス的大型書店は立ち読みに寛容でした。

それどころか、フロアのカーペットに寝っころがって売り物の本を読んでる白人男性がいるわけですよ。

さらには、売り物の本を未清算のまま店内の本をスターバックスで読んだりもするわけです。

本場スターバックスは日本とはやや慣行が違うようです。

まずカップのサイズが違う。

レギュラーサイズは飲みきれないほどの量です。

そこへなみなみとカップの縁ぎりぎりまでホットコーヒーが注がれます。

日本のオフィスなら、一日かけて飲む量です。

ですので、保温ポットを持参してそこへ注いでもらう人もいました。

溢れる寸前までカップにコーヒーを注がれると、ミルクを入れる隙もありません。

「どうすんだ、これ？」

わたしがとまどっていると、先にカップを受け取った客がある行動に出ました。

「ええー？」

なんと、その客はカップを傾けると、中のコーヒーを捨て始めました。

しかも、ゴミ箱の中へ。

ここまでお読みいただきありがとうございます。

この続きは次回掲載分にてお送りいたします。

どうぞお気軽にご購読ください。

シナモンロールもアメリカンサイズ

「小説家になろう」およびアルファポリス市民のみなさん

当エッセイは、書評や出版物、創作全般についてわたしの日々雑感を掲載しております。

アメリカ人って、ゴミ箱にコーヒー捨てるのな。

ほんま、アメリカ人のやることは大雑把やでー。

そして、中身が減った分ミルクをなみなみと、これまたポットから注ぐのでした。

わたしは、こんなの真似できないのでブラックで中身を飲み減らしてから、ミルクと砂糖を入れようとしたところ、別のお客さんに声をかけられました。

” put sugar earlier (first?) ”

どうやら先に砂糖を入れろと言ってるようです。

たしかにミルクを入れるとコーヒーが冷めますから、先に砂糖を入れた方が溶けやすいですね。

これ、マメチな。

「なんだ、これは？ コーヒー日記か？」

そんなふうにも思う方もいるかもしれません。

話を書店に戻します。

立ち読みどころかコーヒー飲みながら商品を読めるアメリカの書店ですが、全国どこでもそういうわけではないのでしょうね。

また、シナモンロールもでかい。

コーヒーとシナモンロールだけで腹一杯になりそうですね。

ここまでお読みいただきありがとうございます。

この続きは次回掲載分にてお送りいたします。

どうぞお気軽にご購読ください。

アルファポリスという出版社

クリスマスケーキ食べたい！

アルファポリスの二輪草です。

「小説家になろう」およびアルファポリス市民のみなさん

当エッセイは、書評や出版物、創作全般についてわたしの日々雑感を掲載しております。

コーヒーとシナモンロールでお腹いっぱいです。

アメリカでは立ち読みどころか、飲み食い読みOKです。

まあ、そういう店はアメリカでも少ないんでしょうけど。

さすがに、コーヒー飲みながら商品の本を読んでいたおっさんが、本を元の棚に戻さずに帰っちゃったときは、店員も怒ってましたね。

と、まあ、こんなアメリカの書店事情です。

あなたの心には、なにが残りましたか？

さて、そろそろ日本国内の出版事情にもどりたいと思います。

このエッセイがエントリーしているアルファポリスという会社について書きます。

アルファポリスってなに？　って方は、まずこのページをご覧ください。

<http://www.alphapolis.co.jp/citicont|prizekaisai.php>

このエッセイブログ大賞にエントリーしているということは、以前にも述べた通りです。

ここまでお読みいただきありがとうございます。

この続きは次回掲載分にてお送りいたします。

どうぞお気軽にご購読ください。

ドリームブッククラブ挑戦日記1

ロードクエスト新シナリオ出た!!

アルファポリスの二輪草です。

「小説家になろう」およびアルファポリス市民のみなさん

当エッセイは、書評や出版物、創作全般についてわたしの日々雑感を掲載しております。

この作品がエッセイブログ大賞にエントリーしているということは、以前にも述べた通りです。

詳細は過去の掲載分にて紹介しましたが、今月はほんとに思いついたことを書いているだけなので、作品を執筆しているという意識はありません。

さてアルファポリスという出版社のサイトにドリームブッククラブというコーナーがあります。

下記のページをご覧ください。

<http://www.alphapolis.co.jp/indexdbc.php>

「ドリームブッククラブ」は読者支援により書籍出版化を目指す無料読み物サイトです！

「小説家になろう」と何が違うの？　と思う方もいるでしょう。

わたしのよう「小説家になろう」作品をアルファポリスに登録している人もたくさんいます。

そのなかで、作家（書き手）は出版化を目指す作品をドリームブッククラブに公開します。

・公開期間は90日間

・任意の範囲を非公開とすることも可能

ここまでお読みいただきありがとうございます。

この続きは次回掲載分にてお送りいたします。

どうぞお気軽にご購読ください。

ドリームブッククラブ挑戦日記2

クリスマスプレゼントほしい!!

アルファポリスの二輪草です。

「小説家になろう」およびアルファポリス市民のみなさん

当エッセイは、書評や出版物、創作全般についてわたしの日々雑感を掲載しております。

ドリームブッククラブとは？

以下、オフィシャルページから引用。

●読者はお気に入り作品、出版化を希望する作品に支援！

・支援は購入予約、出資、携帯投票の3通り

【購入予約】1ポイント

(1) 出版化が決定したら一冊1000円(送料・税込)で購入することをお約束。

(2) 申し込みは一人一冊まで。

(3) 書籍は著者サイン本を送付。

【出資】一口5ポイント

(1) 出版化へ出資。

(2) 出資は一口一万円より。一作品につき一人五口まで。

(3) 書籍の販売上により、一口につき印税0.1%を配当。

(4) 書籍奥付けに支援者として記名(仮名可)。

(5) 著者サイン本一冊を送付。

【携帯投票】 1ポイント

- (1) 出版化へ携帯により投票。
- (2) 投票は一作品につき一人一回まで。
- (3) 個人情報の入力の必要はありません（携帯端末IDはサーバー側で取得されます）。

*ポイントには支援のほかにメルマガ発行部数も組み入れられることになりました。

ここまでお読みいただきありがとうございます。

この続きは次回掲載分にてお送りいたします。

どうぞお気軽にご購読ください。

ドリームブッククラブ挑戦日記3

冬のボーナスほしいぞ!!

アルファポリスの二輪草です。

「小説家になろう」およびアルファポリス市民のみなさん

当エッセイは、書評や出版物、創作全般についてわたしの日々雑感を掲載しております。

ドリームブッククラブとは？（前回の続き）
以下、オフィシャルページから引用。

●読者はお気に入り作品、出版化を希望する作品に支援！

・支援は購入予約、出資、携帯投票の3通り

●合計300ポイント達成で出版最終審議へ！

・300ポイント達成作品は出版化最終審議を経て、出版化へ。

・300ポイントに未達でもアルファポリスの判断により、出版化を決定するケースもあります。

引用おわり

と、まあ、これがドリームブッククラブの概略です。

自分の作品をみんなに見せて、出版の後押しをしてもらおうと、支援した人も出資すれば、本の売り上げから0.1%の印税がもらえるということなんです。

だから気に入った作品に投資することで、その作品が出版されるように応援できるわけです。

また人知れずではなく、当事者意識をもって出版に関われるのもおもしろいところですね。

ここまでお読みいただきありがとうございます。

この続きは次回掲載分にてお送りいたします。

どうぞお気軽にご購読ください。

青春小説大賞結果発表

お湯をかけたらボーナス出たよ

アルファポリスの二輪草です。

「小説家になろう」およびアルファポリス市民のみなさん

当エッセイは、書評や出版物、創作全般についてわたしの日々雑感を掲載しております。

青春小説大賞の結果が発表になりましたね。

拙作はまだ序盤の1／3までだったので難しいと思っておりましたが、今回は短編が受賞しましたね。

大賞「KAYO」のsagitataさん、読者賞「少年アンダーラム」のはるさん、投票して1万円当たったみなさん、おめでとうございます。

短編でも可と応募要領に書いてありますが、正直本当に短編に賞をくれるとは思っていなかったので、これはひとつの嬉しい前例として受け止めたいと思います。

来年2月の恋愛小説大賞は自分には関係ないと思ってましたが、短編でエントリーしてみようかな、と思い始めているところです。

ここまでお読みいただきありがとうございます。

この続きは次回掲載分にてお送りいたします。

どうぞお気軽にご購読ください。

ボーナス、ビー・アンビシャス！

ボーナス、ビー・アンビシャス！

アルファポリスの二輪草です。

「小説家になろう」およびアルファポリス市民のみなさん

当エッセイは、書評や出版物、創作全般についてわたしの日々雑感を掲載しております。

ドリームブッククラブ挑戦日記の続きです。

実際に自分がエントリーする前に、いまどんな作品があるのか。

アルファポリスの登録サイトが小説やエッセイなどの大分類の下に、青春や恋愛などの小分類に分かれているように、ドリームブッククラブも各ジャンルに分かれています。

それらの作品をチェックしつつ、いくつかの作品に既に出資申し込みや購入予約をしました。

自分自身がコンテンツ大賞にエントリーして、しばらく様子見になっているうちに、残念ながら公開期間を満了して出版審査まで進む作品はありませんでした。

わたし自身もこれから公開する作品を執筆しはじめました。

ですがその前に、チャレンジ中の作品への投票、購入予約、出資を

従前以上に積極的に行い、まずは支援作品の書籍化までを経験したいと思っています。

やってみて、はじめてわかることがありますからね。

ここまでお読みいただきありがとうございます。

この続きは次回掲載分にてお送りいたします。

どうぞお気軽にご購読ください。

ドリームブッククラブ挑戦日記4

ボーナス、ビー・アンビシャス！

アルファポリスの二輪草です。

「小説家になろう」およびアルファポリス市民のみなさん

当エッセイは、書評や出版物、創作全般についてわたしの日々雑感を掲載しております。

ドリームブッククラブに現在公開中の作品を見てみましょう。

この中から積極的に出資をして出版化するまでを観察していきたいと思います。

わたしがエントリーするとしたら、まず小説ジャンルになろうかと存じます。

このジャンルで既に出版された作品。

有名などころでは、アルファポリスの看板作品「レイン／雨の日にうまれた戦士」。

さらに大御所と言っているのではないかと思いますが、

「いま、会いに行きます」の市川拓司さんもデビューはこのドリームブッククラブからです。

「S e p a r a t i o n ―きみが還る場所」

ここまでお読みいただきありがとうございます。

この続きは次回掲載分にてお送りいたします。

どうぞお気軽にご購読ください。

ドリームブッククラブ挑戦日記5

今年のクリスマスは中止です！

アルファポリスの二輪草です。

「小説家になろう」およびアルファポリス市民のみなさん

当エッセイは、書評や出版物、創作全般についてわたしの日々雑感を掲載しております。

ドリームブッククラブ最近のヒット作と言えば、

虹色ほたる―永遠の夏休み 川口 雅幸 (著)

実績配当ベスト2 66, 355円 (「虹色ほたる―永遠の夏休み」)

この作品の出版に出資支援した人は、売り上げの0.1%の印税を著者とともに受け取れるのです。

五口まで出資できるそうなので、その場合、33万円以上の配当を得ていたわけです。

というわけで、わたしも金の卵はないものかと公開中の作品をあさってみることにします。

さらに自分の作品が出版されベストセラーになった暁には、虹色ほたるの作者の印税が10%とした場合、出資一口の100倍660

万円を得ることが出来るわけです。

わたしはお金が大好きなので頑張りたいと思います。

ここまでお読みいただきありがとうございます。

この続きは次回掲載分にてお送りいたします。

どうぞお気軽にご購読ください。

ドリームブッククラブ挑戦日記6

ドルを買え！

アルファポリスの二輪草です。

「小説家になろう」およびアルファポリス市民のみなさん

当エッセイは、書評や出版物、創作全般についてわたしの日々雑感を掲載しております。

アルファポリスからメールが来ました。

■ドリームブッククラブより公開終了のお知らせです■

出資登録いただいた皆様へ

出資登録をいただきました

「〇〇〇〇」ですが、

残念ながら出版化にいたらず公開期間が終了いたしましたのでお知らせいたします。

またのご参加をお待ちしております。

ここまで引用

出版支援のために一万円を出資し、公開期間が終了すると上記のメールが来ます。

購入予約もしていたので、二通メールが来ました。今回はポイントが300ポイントに届きませんでした。

これからチャレンジする方、公開中の作者のみなさん、

我こそはと思う方、どんどんわたし宛にメッセージを送信してください。

作者あてメッセージはこのページの株にあります。

かなり前向きに検討いたします。

また、依頼があったことも申しません。

引き続き自分でいいなと思ったものには積極的に出資していきます。

ここまでお読みいただきありがとうございます。

この続きは次回掲載分にてお送りいたします。

どうぞお気軽にご購読ください。

ドリームブッククラブ挑戦日記7

実用大賞エントリーしたよ。

アルファポリスの二輪草です。

「小説家になろう」およびアルファポリス市民のみなさん

当エッセイは、書評や出版物、創作全般についてわたしの日々雑感を掲載しております。

ドリームブッククラブに出資して、いくらほどの配当が期待できるでしょうか？

ホームページによると、〽08年05月刊行書籍（新刊委託清算済）

一口（10,000円）あたりの出資配当実績 平均実績配当 8,647円（出資のあった刊行書籍全38点あたり平均）とあります。

つまり平均して元本割れです。

ただ、著者サイン本が一冊送られます。どのみち出資した本は買うつもりですから、これを合わせるとトントンと考えることも出来ますね。

将来、すごいプレミアがつくかもしれません。

それにベストセラーになったら、

「あの作家は、デビューするときにわしが支援した」って言うことができるんです。

ずっと、恩着せがましくつきまとうこともできます。

もちろん、わたしがそれでデビューできたら、支援してくださった方には恩を着せてもらってかまいません。

ここまでお読みいただきありがとうございます。

この続きは次回掲載分にてお送りいたします。

どうぞお気軽にご購読ください。

ドリームブッククラブ挑戦日記8

ドリームブッククラブに現在出資7作品。

アルファポリスの二輪草です。

「小説家になろう」およびアルファポリス市民のみなさん

当エッセイは、書評や出版物、創作全般についてわたしの日々雑感を掲載しております。

ドリームブッククラブに出資して、元本を得るためには合計一千万円分の書籍発行部数が必要ということでしょうか。

書籍の単価は1200円、1400円台のものが多くすると、1400円の書籍が7200部程度発行されて出資者は元が取れるわけですか？

もっと単純に考えると、単価1000円の本が1万部売った場合に1万円の配当。著者印税はどの出版社でも10%が標準だそうですから、平均的に100万円近くになります。アルファポリスの場合は、もっと細かい印税規定が明示されていますが、ほぼこれに近い額です。

1万部と言えば十分にベストセラーと言えるでしょう。ただ、その著者の収入がこの額ということであれば、作家という職業は専業で行うには辛い仕事と言わざるを得ません。

ですが職業を持った人間の趣味としては、小説ほどお金のかからな

い趣味もない、と言うことも言えます。

そんなことで、わたし自身もあまり意地を張らず、かといって賞の傾向ばかりを意識したものではなく、思いついたことを気晴らしに書くというスタイルで創作に取り組んでいきたいと考えています。

また読者の方がたまに送ってくださる拙著の購入報告もたいへんに励みになっております。

ここまでお読みいただきありがとうございます。

あと、1・2回分でエッセイ／ブログコンテストの期間が終了します。

今回は、ドリームブッククラブの刊行物の中から、

高遠響さんの「薔薇の紋章」を例に、どんな作品を書いたらいいか考えてみたいと思います。

どうぞお気軽にご購読ください。

ドリームブッククラブ挑戦日記9

ドリームブッククラブに現在出資10作品。

アルファポリスの二輪草です。

「小説家になろう」およびアルファポリス市民のみなさん

当エッセイは、書評や出版物、創作全般についてわたしの日々雑感を掲載しております。

いよいよ明日でエッセイ／ブログコンテストの期間が終了します。

ドリームブッククラブに挑戦するには、まず過去の同レベル出版作品を読むのが参考になるだろう、ということで高遠響さん著「薔薇の紋章」を購入しました。

この本を選んだ理由がいくつかあります。

この作品は300ポイントを期間内に達成できなかったもののアルファポリス編集部の目に留まり、何度かの改稿を経て出版に至ったそうです。

つまりそれだけ編集部の評価が高く、出版してみたいと思わせる作品であったため大いに参考になるだろう、と思うのです。

また、著者の方にはファンタジー小説大賞のときに拙作を応援してくださいました。

実は、まだわたしも数ページしか読んでいません（すいません）ので、以下にあらすじを記します。

1930年、春。社交界や政界の大物が集うHotel Kawasima、通称「薔薇屋敷」の女主人、川島千明は、その美貌と知性で華やかな話題を振りまいていた。そんな千明の身边警護に陸軍士官学校を中退した草野義久が雇われる……軍靴の足音が聞こえ始めた時代。野心と謀略に翻弄された愛の行方を描く疾風浪漫小説。

販売ページ

<http://www.amazon.co.jp/dp/4434116134/>

この本に倣って書くのが近道であると考えた場合、内容はこれから吟味しますが、まず作品の体裁はすぐに知ることが出来ます。

ページ数…本文344ページ。

一ページあたりの文字数…40字×16行＝640字。

ただ、一行が40字ですので、ワープロ原稿の書式を40字×32行にした場合、177ページほどの原稿になります。

20字×20行の400字詰原稿用紙に換算すると、だいたい枚数は変わってしまいますけどね。

おおよそ500枚ほどの原稿が一番収まりがいいのかな、と思います。

その他にも買ってみてはじめてわかることがありましたので、自作制作の参考にしたいと思います。

ここまでお読みいただきありがとうございます。

どうぞお気軽にご購読ください。

ドリームブッククラブ挑戦日記10

ドリームブッククラブに出資していた作品の公開が終了し、出資作品が減りました。

出資希望の方はどうぞご連絡ください。前向きに検討します。

アルファポリスの二輪草です。

「小説家になろう」およびアルファポリス市民のみなさん
当エッセイは、書評や出版物、創作全般についてわたしの日々雑感を掲載しております。

エッセイ／ブログコンテストの期間が終了しました。

エッセイというよりお知らせみたいな内容でしたが投票してください
ったみなさん、ありがとうございます。

このエッセイは今後もお知らせがあるたびに更新しますが、本日から実用大賞が始まります。

拙作、というか某所で発行したメールマガジンのバックナンバーですが、「狼と通信料」もエントリーしていますので、よろしく願います。

そして、2月開催の恋愛小説大賞にエントリーする作品はどんなものがよいか考えながら年を越したいと思います。

いま頭に浮かんでいるアイデアを二つ書きますと一つは、

『時を止める少女』

ある「一日」を無限に繰り返す少女と、その日に彼女へ告白をした少年の運命を描く「タイムストップ・ラブストーリー」。

もう一つ、

『純情オーバードライブ』

一年もの長きにわたり、失踪していた少年が生還した。だが確かに本人に違いないものの、その雰囲気は別人のように一変していた。彼の奇異な言動に、彼の無事を祈り続けた少女は、精神の均衡を失ってゆく。

ここまでお読みいただきありがとうございます。

「チラシの裏にでも書いてろ」という声が聞こえてきそうですが、二輪草先生の次回作にご期待ください！　なんて週刊少年ジャンプの編集者風に締めさせていただきます。

備忘録

まったく脈絡も無いんですが、作品の紹介ページに「152日間更新していません」の赤字表示が出てましたので、ひさしぶりに更新することにしました。

なにを書こうかという、いまアルファポリスの「ミステリー」カテゴリに作品をひとつ登録しています。

7月にミステリー小説大賞があるので、そこに応募しようとしていると思われた方もいるかもしれませんが、更新ペースが遅いので7月のエントリーは考えていません。

第二回大賞にエントリーしても、未完成のまま連載を続けて来年の第三回ミステリー大賞に再エントリーすることもできるので、とくにこだわる必要も無いのですが。

この作品は更新遅いです。

構想三十分で起承転結の「転」をのぞく部分がイメージできました。

書いてるうちに「転」の部分も自然と書けるだろうと思っていましたが、同時にまた別の作品の構想も生まれましたので、どっちに専念するでも無く、またそれを文章にするでも無くイメージを膨らませています。

今日はその作品のアイデアを忘れないようにここに書いておこうと思います。

仮タイトル「シークレット・エージェント」

ジャンル…シリアス／スパイ

主人公…高校生男子1名

ヒロイン…登場せず。

概要…コミカル学園スパイ青春小説と見せかけて、どんより血なまぐさいハードボイルド。

キャッチコピー…「そういえば俺、秘密結社のメンバーだった!」

冒頭部分を次回、掲載します。

最期のドリームブック

出版したい作者を応援する企画でした。（現在新規登録終了

わたしは手当り次第に出資登録していましたが、

今日は以下の文面を15通受信しました。今夜中にまだまだ来るかも？

■■ドリームブッククラブより公開終了のお知らせです■■

出資登録いただいた皆様へ

出資登録をいただきました

「@@@@@@@@@」

ですが、

残念ながら出版化にいたらず公開期間が

終了いたしましたのでお知らせいたします。

今後ともアルファポリスを宜しくお願い申し上げます。

#2

前回の記事で書いたドリームブッククラブですが、出資した作品が300ポイントに達すると、下記のようなメールが来ます。

ドリームブッククラブよりお知らせです

出資のご登録をいただいた皆様へ

この度はドリームブッククラブに公開された
「@@@@@@@@」(・・・) 著
に出資のご登録を頂きまして誠に有難うございます。

同作は出版規定である300ポイントを突破し、出版の最終審議へ入ります。

結論はおおよそ二週間後となります。

（あるいは状況により更に延びる可能性もあります。
あらかじめご了承ください）

以上ご報告させていただきます。

#3

いよいよ出資することになりました。

アルファポリスよりお知らせです

@
 @
 @
 @
 @
 @
 @
 @
 @
 様

お世話になります。

「水曜日の恋人」(ryusuke 著)

の出版化が正式に決定されましたのでご連絡申し上げます。

出版化にご支援頂きました皆様方には改めてお礼申し上げます。

なお、出版化にあたって現状のままでは文量が多すぎるため、著者と相談しまして、一冊の書籍としてまとめるために大幅な改稿をおこない、現在の約半分の文量にすることがになりました。

改稿に時間を要するため、出版は2010年12月～2011年2月を予定しております。

また、弊社恋愛小説レーベル「エタニティブックス」からの刊行になります。

この時点で、ご支援を取りやめたい場合、出資をご辞退されてもかまいません。

本メールに記載してあります振込み期限までにお振込みがない場合も、ご辞退されたものと判断させていただきますが、管理の関係上、ご辞退される場合は、その旨をご連絡いただけると助かります。

ご不明点は下記までお願いいたします。

[illegible]

70

#4

出資作品が出版されます

「水曜日の恋人」（単行本／エタニティ・ロゼ） 龍田よしの 著
アルファポリス

4 年間つきあってきた彼氏にあっさりふられてしまった彩芽。どんな底気分の彩芽を励まそうとした先輩に連れて行かれたのはなんとホストクラブ！ 魅力的なホスト達にもてなされる中、店のナンバー12、右生が挑発まじりにゲームに誘う。「3ヶ月の間にそっちが俺に惚れれば俺の勝ち。惚れなければ君の勝ち。」それがこのゲーム、「ウエンズデーラバー」のはじまりだった??

2011年01月頃刊行予定

わたくし、この本に出資してしまして、実売部数の0.1%の印税を受け取ることになっています。

お金よりも、出版の実際を体験するために出資したものです。

電子書籍発売

拙作の電子書籍が発売になりました。

「従姉のジュリエット」

まずは携帯電話会社の公式書店「どこでも読書」から。

順次、パピレスなどのPC用サイトでもリリースされます。

<http://www.iruka-books.net/static/mobilebook|QR.html>

サイト内総合検索↓カテゴリで探す↓小説↓検索ボックスに

従姉のジュリエット と入力↓ 探す ボタン。

決裁は携帯電話の料金と一緒になのでかんたんです。

よろしく願います。

音声入力はこんなに進化しました。

小説を書くという作業の意味も変わってしまうのか。

昔、IBMのPCに音声入力機能がついていたが、使い物になるレベルではなかった。

↓以下は、スマートフォンによる音声入力で「もしどら」をテキスト起こしたものだ。これをPCで受信します。

川島みなみが野球部のマネージャーになったのは、高校二年生の7月中か 夏休み直前のことだった まる

それは突然の事だった まるほんの少し前まで南はまさか自分が野球部のマネージャーになるとは思っていなかった まる

それまではどこの部活にも所属していない ただの女子高生に過ぎなかった

野球部とは m ゆかりもなかった

ところが 思いもよらない しおから 野球部のマネージャー4することとなった

そのため2年生の夏休み前という中途半端な時期ではあったが野球部に入部したのである↓

どうでしょうか。

けっこうな認識率ですね

今回の小説更新分にも音声入力を使用しました。タイピングで修正はしましたけど。

<http://ncode.syosetu.com/n3663s/17/>

小説家になろうでの日々をふりかえる

わたしが、「小説家になろう」を知ったのは2007年のことだったと思います。

小説家になろう自体の開設は2004年だったでしょうか。

はじめて投稿した作品が「従姉のジュリエット」。

いまでこそファンタジー作品がランキング上位を占めていますが、当時は恋愛ジャンルが圧倒的に人気でした。

右を向いても左を向いても恋愛作品ばかり。

いま小説家になろうを「ライトノベル作家になろう」と評する人がいますが、当時の雰囲気だと「『恋愛小説家になろう』だな」と言われていました。

恋愛に続く人気ジャンルがファンタジー。いまのランキングにおける両ジャンルを入れ替えたような勢力分布だったと記憶しています。

この頃は「魔法のiらんど」とかスターツ出版をはじめとする携帯小説全盛期だったので、その影響もあったと思います。

当時は管理人ウメ様運営の個人サイトで、みんな和気あいあいと和やかな雰囲気を利用していました。わたしはこの草の根の感じも好きで、本サイトをずっと利用させていただいています。

前述の「従姉のジュリエット」はビギナーズラックか人気を博し、全ジャンル日別アクセスランキング1位になることができました。

1位になったらなにか素敵なことが起きるのでは？ 出版社からスカウトされるかも？ とワクワクしたのですが、とくにそういうことはありませんでした。

当時はいまのような評価ポイント制ではなく、純粹にユニークアクセス順で2000ユニークアクセスでも1位になることができたのでした。

わたしより人気のある作品はたくさんあって、それらの作品が更新すると3000ユニークアクセスぐらい行ってたと思います。（日によっては5000ぐらいか？）

その後、「従姉のジュリエット」の続編を書き、それをファンタジー設定にした作品を小説新人賞に送り、それぞれ異なる評価を受けました。出版社によって、評価のポイントが違うんですね。

わたしは小説家志望と言えるほど作品をたくさん書いていないので、ひとつの作品を何度も改稿するという方法で執筆しています。そのぶん小説賞応募作品の品質は上がっていると思うのですが。

ですので、小説家になろうに新たに掲載する作品というものはあまりなく、思いつきで書き始めてしまった作品を掲載することもあります。なるべく新作投稿という形より以前に投稿した作品スペースを再利用しています。

小説賞に応募する他、作品を出版社に直接読んでもらう持ち込みもしてみました。手応えがなければまた別の方法を考えたかもしれませんが、比較的好意的に評価をしてくれたので、不採用になっても他の出版社へ相談するということを繰り返していました。

この辺の詳細はまた別の機会にお話しますが、自分の本を出版するためのいろいろなノウハウを学ぶことが出来ました。

そうこうしている間に時は過ぎて、小説家になろうは利用者が爆発的に増えました。今では一日1900万アクセスというから驚きです。

人気ジャンルもファンタジー、それも異世界トリップが最大勢力となっているのはみなさんご存知のとおりです。

わたしはすっかり過去の人となり、当時の人気作家もいまは名前を見ることが少なくなりました。

当時から変わらず活躍されている方もいらっしやいます。そして昨今、怒濤の出版ラッシュが始まったようですね。

そうなる。「なんだ、正攻法で小説家になろうへの投稿に専念しておけばよかったじゃないか」と思うこともあります。

ただわたしのやってきたことも無駄ではなく、「従姉のジュリエット」はいるかネットブックス様より電子書籍として出版されました。

そして、長編ファンタジー作品もいくつかの出版社から採用通知をもらったものの、出版社がなくなってしまったり、自費出版詐欺に遭いそうになって辞退したり、足踏み状態が続いていたのですが、なんとか今年中に形になる運びとなり、契約書を取り交わしたところです。

自費出版的な条件を多少なりと受け入れればもっと早く結果が出せたのですが、時間がかかった分通常の出版条件にこだわり今に至っています。

この過程でいろいろ面白いエピソードやノウハウがあるので、非常に有用な情報ではあるものの洒落にならない話が多く、もともとこのエッセイの中で紹介するはずが書くに書けないでおります。

ともかくこれから出版の準備をしますが、そのノウハウを知りたいという方がいればお力になりたいと考えています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8410d/>

W2165B書店

2011年10月3日22時11分発行